

家屋倒壊等氾濫想定区域の説明

「家屋倒壊等氾濫想定区域」とは、堤防沿いの地域等において、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域のことです。

福岡県朝倉市・筑後川水系桂川
(平成 29 年 7 月九州北部豪雨)



河岸侵食による被害 [出典／九州地方整備局資料]

地図凡例	
浸水した場合に予想される水深	
0.0 ～ 0.5m未満	
0.5 ～ 3.0m未満	
3.0 ～ 5.0m未満	
5.0 ～ 10.0m未満	
10.0 ～ 20.0m未満	
家屋倒壊等氾濫想定区域	

↑
ハザードマップでは
このような表現であ
らわれます。

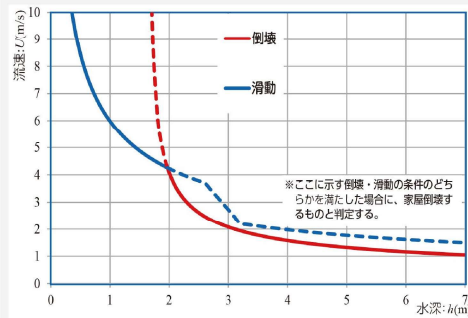
家屋倒壊等氾濫想定区域に該当
する場合は立ち退き避難が必要

家屋倒壊等氾濫想定区域の設定方法等

家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)

一般的な構造の木造家屋について、浸水深と流速から倒壊等をもたらすような氾濫流が発生するおそれのある区域を推算。

頑強な高層のビルがある場合には、倒壊等の恐れは低いため、ただちに立ち退き避難が必要との判断にはならない場合もある。

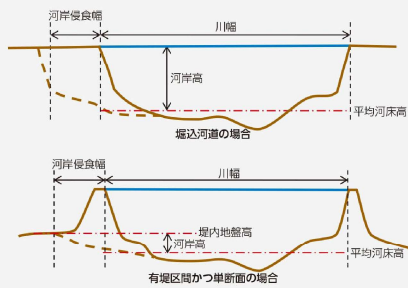


一般的な木造家屋の倒壊等に係る流速・水深の関係

家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)

家屋の基礎を支える地盤が流出するような河岸侵食が発生するおそれのある区域を推算。
過去の洪水規模別に発生した河岸侵食幅より、木造・非木造の家屋の倒壊等をもたらすような洪水時の河岸侵食幅を、河岸高(堤内地盤高と平均河床高の差)や川幅等から推算。

河岸侵食幅=河岸高×α
(α=5～35(川幅や河床勾配により決まる))



河岸侵食の算定式と算定に用いる川幅等

気象庁の気象情報発表基準

警報とは、重大な災害が起こるおそれのあるときに警戒を呼びかけて行う予報です。また、注意報は、災害が起こるおそれのあるときに注意を呼びかけて行う予報です。

警報	大雨	(浸水害) 表面雨量指数基準	20
		(土砂災害) 土壌雨量指数基準	135
	洪水	流域雨量指数基準	利根川流域=88.3 茂沢川流域=9.9 平沢川流域=8.7 吾妻川流域=63.5 沼尾川流域=10.9 滝の沢川流域=7 午王川流域=6
	暴風	平均風速	18m/s
注意報	大雨	表面雨量指数基準	11
		土壌雨量指数基準	81
	洪水	流域雨量指数基準	利根川流域=70.6 茂沢川流域=7.9 平沢川流域=7 吾妻川流域=50.8 沼尾川流域=8.7 滝の沢川流域=5.6 午王川流域=4.8
	強風	平均風速	13m/s
記録的短時間大雨情報		1時間雨量	100mm

渋川市における警報・注意報の雨量目安

警報	大雨(浸水害)	平坦地: 1時間雨量 80mm
	洪水	平坦地以外: 3時間雨量 140mm
注意報	大雨	平坦地: 1時間雨量 40mm 以上
	洪水	平坦地以外: 3時間雨量 70mm 以上

気象情報と避難情報・避難場所

気象情報	避難情報	避難場所
大雨・洪水注意報	●自主避難	●各自治会内の指定緊急避難場所 ●市の管理する公民館
大雨・洪水警報	●自主避難 ●避難準備・高齢者等避難開始	●各自治会内の指定緊急避難場所 ●市の管理する公民館
大雨・洪水警報(浸水害)(土砂災害)	●避難準備・高齢者等避難開始 ●避難勧告 ●避難指示(緊急)	●指定避難所 ●各自治会内の指定緊急避難場所
大雨特別警報	●避難指示(緊急)	●指定避難所 ●行政が指示する避難所